



## プーチンは天才、バイデンは老骨(トランプ前大統領)

バイデンは「もしロシアがウクライナ侵攻をすれば、制裁は今までにない最も厳しいものになる」と言って

ロシアの銀行を SWIFT(国際銀行間通信協会)から除外することやプーチン個人と取り巻きの資産凍結等を公言した。そしてバイデンは 2 月 21 日の記者会見で「プーチン大統領はウクライナ侵攻を決意した。数日のうちに実行されるだろう」と述べ、CIA からの情報なので確信を持っていると言った。

プーチンはバイデンの確信の通り、3 日後の 2 月 24 日国境のロシア軍に侵攻命令を発したので最も厳しいと言われる SWIFT 除外の制裁を受け、ルーブル(ロシア通貨)は 80%の暴落、国内の物価が急騰、ハイパーインフレの懸念が出てきている。

(欧州に輸出している天然ガスと原油はウクライナ侵攻以来増えているので高いユーロの流入が続き、インフレは収まる)

一方、ロシアの国債はルーブルとドルの交換が出来ないことから 3 月の返済分 7 億 3,000 万ドルがデフォルト(返済不能)になる可能性が高くなっている。(ドル市場では不渡り、ユーロ市場では決済される)

3 月の最初の支払日 3 月 16 日分から返済不能になることが確実になったと騒がれているが被害を受けるのはアメリカだけ。

プーチンにしてみればまだ不渡りをしていないのにドル口座の強制閉鎖を受けたのと同じだから、今後期日がやって来る国債はドルベースの債権者には一切払えないし払わないだろう。

ロシアは既に人民元基軸の CIPS(Cross-Border Interbank Payment System)に加盟しているので外国とロシアとの間の国際取引決済に支障はきたさない。

(国・地域別の CIPS 参加銀行数、日本は最大の取引高)

バイデンは中国にも人道問題で制裁を掛けているので、中国は中国と取引をしている国に CIPS に加盟することを促している。SWIFT を通して取引決済をするとすべての取引情報がマンハッタン(NY)のコルレス(中継銀行)に知られることになるので、アメリカ以外の参加銀行は、アメリカに制裁されるので口には出さないが不満がたまっている。CIPS の加盟国は毎年 80%のピッチで増え、SWIFT の加盟国は減り続けている。

ドル基軸を支えている SWIFT が斜陽化することはドルの衰退に繋がる。

ロシアの国債(手形)は SWIFT の口座なら返済不履行(不渡り)、CIPS なら履行。

プーチンと習近平の願いは、ドル覇権体制を破壊し、人民銀行と世界の全銀行を直結させることである。

バイデンはロシアのみならず、何かにつけ二言目には制裁をちらつかせているが、結果的にはプーチンと習近平を喜ばせ、自ら(ドル)の首を絞めることになることが分かっていないようだ。

トランプは、「プーチンは天才、バイデンは老骨」と言ったが、うなずけないことはない！

国・地域別のCIPS参加銀行数  
(中国、香港、マカオを除く)

